

小学校 第3学年 玉名学【探究】学習指導案

日 時:平成27年11月17日(火)

指導者:教諭 唐津 智彦

1 単元名「安心・安全なまち 玉名」(玉名学・探究 P26)

2 単元について

(1) ねらいについて

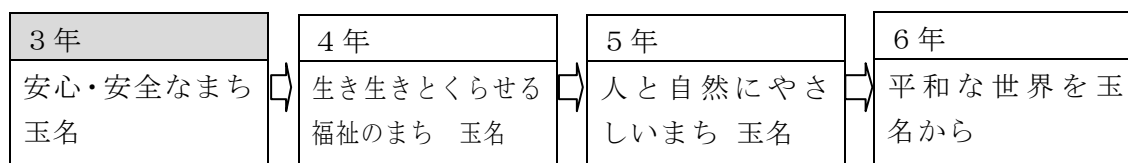
私たちのくらしの最大の基盤は、安全で安心なくらしができることである。しかしながら近年は多くの自然災害が起こり、人々の暮らしの基盤がゆらぐことを児童なりにメディアを通じて感じている。また、交通安全や防犯という観点からも多くの事象が起きているということも同様に感じている。その一方で、それらの児童の概念は断片的で、「安全・安心なくらしづくり」という観点で整理されているものではない。

そこで、本単元では、まず自然災害について学び、自然の脅威を知ると同時に、市の防災の取組について学び、安心・安全に関する課題意識を持つようにする。それらの課題意識の下で、身近な教室や学校、地域における「危険」について調べ、互いの感想や意見を交流し合うことで考えを深めさせ、「安心・安全なまちづくり」は、自分自身を含めたみんなにとって大切なことであることに気づかせ、整理していくことをねらいとしている。

このような一連の学習の帰着点として、児童には、「校区の安心・安全マップ」を作成し、学校のホームページで発信するというめあてを持たせることで意欲の持続と目的意識を明確にさせ、安全に気をつけた行動の実践化を図る。

さらに学習を通して、課題解決のための取材や編集、グループでの討議などの探究活動の一連の過程も学ぶことで、今後の玉名学の学習方法として身につけていくこともねらったものである。

(2) 系統について



(3) 指導にあたって

ア 研究主題について

「豊かな表現で、考えを伝え合う児童の育成」
～ICTを活用した授業改善の取組を通して～

○ ICT等を使って多様な表現方法で考えを表現する。

- ・ノート等に表現した内容を、タブレットパソコンなどのICTをはじめとした多様な表現手法で他者に伝える。

- ・ノート等への表現方法も多様な表現を意識させる。
- ・単純な発表から説明へ、そして対話へと相互作用の高次化を図る。
- ・表現する場を、ペア、グループ、全体等と工夫する。

○「たまきな学習過程」の徹底。

- ・「たまきな学習過程」である、「つかむ」「考える（自力解決）」「ふかめる（共同解決）」「まとめる／ふりかえる」の学習過程を意識させる。
- ・学習過程が明確に分かる板書を工夫する。
- ・学習過程が分かるようなノートの整理の仕方を工夫させる。

○ 学習規律などの基盤作り

- ・学びの合い言葉「ピン・ベタ・ジー、ハイ」を統一的に指導徹底する。
 - ピン・ベタ・ジー（背筋を伸ばす・両足を床に揃える・話をしている人の顔を見る）のきちんとした聞く姿勢の徹底
 - 「ハイ」という返事の徹底
- ・ノートをていねいに書く習慣化を図る。
- ・他者の意見を受容的に聞く態度を育成する。
- ・「心いきいきタイム」等を活用した支持的風土の集団作りに努める。
- ・ICT 関連機器の操作の習熟を図る。
- ・ICT 機器等は常に使いやすいように設置整備する。
- ・児童が考え、興味関心を喚起する校内掲示の充実を図る。
- ・教室前面設営の統一化と後方掲示の充実を図る。
- ・人権尊重を基盤に、情報モラル教育の充実を念頭においた指導を心がける。

ICT活用のポイント

①教師の活用

- ・関連する映像を提示し、児童の関心・意欲を引き出す。
- ・大型の提示装置を用いて、学習の方法や児童の学びの状況を提示し、指示の徹底や効率化を図る。
- ・タブレット端末の画像を大型テレビに映し出し、よりわかりやすい授業をめざす。

②児童の活用

- ・タブレット端末を使い、写真や動画を撮影する。
- ・タブレット端末を使い、「個人フォルダ」内の写真の中から、伝えたいことが一番分かりやすい写真や動画を選び、「発表用フォルダ」に発表順に整理する。
- ・タブレット端末の画像を大型テレビに拡大提示し、分かったことや気づいたこと、類似点や相違点を中心に意見や感想を交流する。

3 単元の目標

- 安心・安全に関する校区の実情や地域の人々の取組を調べ、発信するという活動を通して、安心・安全な玉名の町づくりをしていきたいという意欲を持つとともに、安全に気をつけた行動の実践化を高めることができる。

4 単元の評価規準

評価の観点	評価規準
よりよく問題を解決する資質・能力	学校の職員や地域の人と関わりながら、調べたり、取材したりして課題を解決することができる。

学び方やものの考え方	調べたり、取材したりして分かったことをタブレット端末などを使い、相手にわかりやすく整理し、互いの考えや意見を交流することを通して、次の課題を見つけ、追求することができる。
地域社会への関心・参画態度	社会のできごとや社会の一員として自分たちができていることに気づくことができる。
自己理解と他者理解・協働性	学校や地域の安心・安全に関心を持って友だちの発表を聞き、感想や意見を述べることができる。
自己の生き方	学んだことをこれからの生活に生かすことができる。

5 指導計画及び評価基準(15時間取扱い)

時	学習活動	指導上の留意事項	資	考	関	生	評価基準及び評価方法
1	・オリエンテーション	・東日本大震災や鬼怒川氾濫等の災害状況を知ること、安心や安全に暮らせることの大切さに気付かせる。			○		地域社会への関心・参画態度(観察) ・東日本大震災や鬼怒川氾濫等の災害状況を知ること、安心や安全に暮らせることの大切さに気付くことができる。
2	・課題づくりをしよう。	・暮らしの中にある危険やその危険から守るための工夫や人々の働きについて、身近なところから調べるための課題づくりを行わせる。			○		地域社会への関心・参画態度(ノート) ・暮らしの中にある危険やその危険から守るための工夫や人々の働きについて、身近なところから調べるための課題づくりを行うことができる。
3	・教室の中の危ないところを調べよう。	・教室の中の危ないところを調べさせる。	○				よりよく問題を解決する資質・能力 (行動観察・ノート) ・教室の中の危ないところを調べることができる。
4	・教室の危ないところを友だちに教えてあげよう。	・教室の中の危ないところを調べて、わかったことや気づいたことを整理し、班ごとに交流させる。		○			学び方やものの考え方 (行動観察・ノート) ・教室の危ないところを調べてわかったことや気づいたことを整理し、班ごとに交流することができる。
5	・保健室中の危ないところを調べよう。	・保健室の中の危ないところを調べさせる。	○				よりよく問題を解決する資質・能力 (行動観察・ノート) ・保健室の中の危ないところを調べることができる。
6	・保健室の危ないところを友だちに教えてあげよう。	・保健室の中の危ないところを調べてわかったことや気づいたことを整理し、班ごとに交流させる。		○			学び方やものの考え方 (行動観察・ノート) ・保健室の危ないところを調べてわかったことや気づいたことを整理し、班ごとに交流することができる。
7	・学校の安心・安全を守るために、教頭先生がやっていることを調べよう。	・学校の安心・安全を守るために、教頭がやっていることを調べさせる。	○				よりよく問題を解決する資質・能力 (行動観察・ノート) ・みんなが安心・安全に暮らせるようにするために教頭がどんなことをしているか調べることができる。
8	・学校の危ないところを友だちに教えてあげよう。	・学校の危ないところについて調べてわかったことや気づいたことを整理し、班ごとに交流させる。		○			学び方やものの考え方 (行動観察・ノート) ・学校の危ないところを調べてわかったことや気づいたことを整理し、班ごとに交流することができる。
9 10	・玉名小校区には危ないところがないか調べよう。	・玉名小校区の中で危険な場所を見つけ、その様子を調べさせる。	○				よりよく問題を解決する資質・能力 (行動観察・ノート) ・玉名小校区の中で危険な場所を見つけ、その様子を調べることができる。
11 本時	・校区の危ないところを友だちに教えてあげよう。	・校区の危険箇所を調べてわかったことや気づいたことを整理し、班ごとに交流させる。		○			学び方やものの考え方(発言・ノート) ・校区の危険箇所を調べてわかったことや気づいたことを整理し、班ごとに交流することができる。
12	・危険から身を守るために、自分たちにできることは何かを考えよう。	・身近な危険から自分たちを守るために、できることは何かを考えさせ、安心・安全マップを作ろうとする意欲を高めさせる。			○		地域社会への関心・参画態度(観察) ・身近な危険から自分たちを守るためにできることは何かを考え、安心・安全マップを作ろうとする意欲を持つことができる。
13 14 15	・安心・安全マップを作ろう。	・班ごとに安心・安全マップを作らせる。	○				よりよく問題を解決する資質・能力(ノート) ・友だちと協力して班ごとに安心・安全マップを作ることができる。
発展	・安心・安全マップを発信し、生活に生かそう。	・安心・安全マップを学校のホームページにアップし、安全に気をつけた行動の実践化を図る。				○	自己の生き方(観察) ・学んだことをこれからの生活に生かすことができる。

6 本時の目標

- (1) 目標 校区の危険箇所を調べてわかったことや気づいたことを整理し、班ごとに交流することができる。

(2) 展開

過程	学習活動、主な発問 (T) 予想される児童の反応 (C)	指導上の留意点・評価	備考 ICT 活用
た っ か む 5 分	1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ (T) 前の時間には、どんな学習をしましたか。 (C) 校区の危ないところまで行って、どんなことが危ないのか調べました。 (T) 今日は、調べたことを整理して発表し、友だちに教えてあげましょう。	- 前時の学習を振り返らせ、本時のめあてをきちんととつかませる。 - 校区の航空写真をプロジェクターで映す。	教師用 PC プロジェクター 模造紙 ノート
ま 考 え る 15 分	2 調べたことを整理し、発表の準備をする。 (T) ①写真や動画をピクチャのフォルダから発表用のフォルダにコピーして整理します。 ②ホワイトボードにキーワードでまとめます。 ③発表の練習をします。 (C) どの写真が一番わかりやすいかな。 (C) キーワードは何にしようかな。 (C) 役割を決めて発表の練習をしよう。	- 整理するポイント ①危ないところの説明。 ②危なくないようにしてある工夫。 ③危ないところの様子や見守ってくださっている方へのインタビュー。 - 整理と発表の準備 ①整理するポイントが一番わかりやすい写真はどれかを選び、選んだ写真をピクチャのフォルダから発表用のフォルダにコピーさせる。 ②発表することを簡潔にホワイトボードにまとめさせる。 ③グループごとに発表の練習をさせる。	タブレット端末 (グループ1台) ホワイトボード (グループ1台)
き ふ か め る 20 分	3 校区の危険箇所を調べてわかったことや気づいたことを班ごとに交流し、情報を共有する。 (T) 班ごとに発表しましょう。 (C) 1 班「元玉名三叉路」について。 2 班「学校前交差点」について。 3 班「迫間郵便局前」について。 4 班「たまきな幼稚園近くの四つ角」について。 5 班「大坊交差点」について。	- 写真や動画に写っている「校区内の危険箇所の様子」や「安全を守るための工夫」、「安全を守ってくれている人々の話」の同じところや違うところを考えながら、話し合いを行わせる。 A 基準 - 校区の危険箇所を調べてわかったことや気づいたことを整理し、同じところや違うところを考えながら、班ごとに交流することができる。 〈B 基準に達していない児童への手立て〉 - これまでの学習を振り返らせ、今の自分にできそうなことを考えさせる。 ◆学び方やものの考え方 (発言・ノート) B 基準 - 校区の危険箇所を調べてわかったことや気づいたことを整理し、班ごとに交流することができる。	大型テレビ HDMI ケーブル
な 整 理 5 分	4 学習の振り返り、次時の確認をする。 (T) 今日の学習を振り返りましょう。 (C) 玉名小学校区には、たくさん危ないところがあることがわかりました。 (C) 危ないところもあるけれど、安全のための工夫もあることがわかりました。 (C) 校区の危ないところをみんなに教えてあげたいです。 (C) ○班の発表を聞いて、安全を守るためのくふうがよくわかりました。	- 学習課題に正対した「まとめ」を行わせる。 - 学習過程全体に関する「ふりかえり」を行わせる。	ノート